

一人一台端末環境での言語活動の充実・言語能力の育成について ～ 語彙力を育む ～

はじめに

1. 学力差と語彙

「学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」

(「学習指導要領 (2) 学習内容の改善・充実 ①語彙指導の改善・充実」)

→ 学力に関係する語彙とは

2. 日本語コーパス

日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)・・・一億語

教科書コーパス・・・仮想学習者が接する全教科書の語彙

3. 漢字の読み書き能力

読み書きの正答率に関係していることは何か

4. 教材例・授業例

① 「水の東西」の語彙分析

② 比喩の学習

③ 「羅生門」を語彙で読む

④ 類語と用例

5. 学習材としての可能性

「少納言」を使ってみる・・・端末操作

教科書を出て、広い言語世界へ！

おわりに〔不易流行〕

国語科学習指導の目標は、児童・生徒に対して、聞くこと、話すこと、読むこと、つづることによって、あらゆる環境におけることばのつかいかたに熟達させるような経験を与えることである。ところが、これまで、国語科学習指導は、せまい教室内の技術として研究せられることが多く、きゅうくつな読解と、形式にとらわれた作文に終始したきらいがある。今後は、**ことばを広い社会的手段として用いるような、要求と能力をやしなうことにつとめなければならない**。それを具体化すると次のようになる。

(昭和 22 年度 試案「学習指導要領試案 国語科編」)